

やまぐちっ子学力向上だより

第 152 号 R6.10.31

山口県教育庁義務教育課

学校と地域の連携協働体制の充実に向けて

2023 年 12 月、国立社会保障・人口問題研究所が 2020 年の国勢調査の結果をもとに、2050 年までの 30 年間の都道府県ごとの人口を推計したものを公表しました。下の表は、2020 年と 2050 年の全国と山口県の人口の比較を示したものです。

| | 2020 年 | 2050 年（推計） | 増減率 |
|-----|----------------|---------------|--------|
| 全 国 | 約 1 億 2622 万人 | 1 億 468 万人 | 約 17%減 |
| 山口県 | 約 134 万 2000 人 | 約 92 万 6000 人 | 約 31%減 |

2050 年には、東京を除くすべての道府県で 2020 年より人口が減少する見通しで、本県の場合、2050 年までに 41 万 6000 人、率にして 31%も減少することが予想されています。これは、全国平均の 17%よりも速いペースです。このことから分かるように、人口減少・流出によって消滅していく地域が出てくる可能性がある中で、人口減少に歯止めをかけることは本県の重要な課題です。そのため、**「地域の担い手」を育てていくことが本県教育にとっての必達目標であると言えます。** 本号では「地域の担い手」の育成に向けた取組を紹介しますので、ぜひ参考にしてください。

周南市立櫛浜小学校、久米小学校、太華中学校の取組 ～ 熟議による議論を通して、課題解決をめざす～

8 月 23 日（金）に、3 校合同の拡大学校運営協議会主催で、「学び」に関する熟議が開催されました。「学びを楽しむ、楽しく学ぶために大切なことを考えよう」をテーマに、それぞれの立場から思いや考えを交流しました。2 学期からは、熟議で話し合ったことが各学校の課題解決につながるよう取組を進めています。

久米小学校では、参加児童が熟議の内容を「報告会」で運営委員会に伝え、運営委員会が学校全体に広げています。全校児童が自分事として考えることができるよう、「学びって何?」「学びを楽しむためにどうする?」等についての動画を作成します。動画には、教員や地域の方へのインタビューも入れることで、「大人も学ぼうとしている」「学びとは自分を成長させるもの」等の思いを抱いてほしいと考えています。今後は、運営委員会が地域連携の窓口となり、「学校・地域連携カリキュラム」を活用しながら、自分の学びの道筋をイメージできる児童の育成をめざしています。



【熟議の様子】



【報告会の様子】



【インタビューの様子】

下関市立文洋中学校の取組

～「みんなの地域活動」「学校と地域での学びをつなぐ総合的な学習の時間」の実施～

下関市立文洋中学校では、今年度から週に1回程度、放課後の時間帯に「みんなの地域活動」を開催しています。この取組は、文化活動に触れる機会が少ない生徒に対して、多様な経験を積む機会を設けることや、日課に位置付けて地域の方を毎週講師として招き、日常的に来校できる仕組みをつくることを目的としています。1学期は6つの講座（平家太鼓・コーラス・書道・イラスト・生け花・ヨガ）に分かれて活動しました。

希望する小学生や地域の方も来校し、中学生と交流しながら活動するなど、生徒たちにとって大人が学ぶ姿に触れる機会ともなっています。



【書道教室】



【生け花教室】



【ヨガ教室】

「探究」を主軸に据えた総合的な学習の時間の見直しにも取り組んでいます。今年度は、「フードロス」「まちづくり」「戦争・平和」の3つのテーマの中から、生徒が各自で追究した成果をもとに、提案や作品づくりに生かす学習を行うことにしています。ある生徒は、フードロス問題の解決策として、子ども食堂と連携した取組につなげることができないかなど、地域課題の解決に関心を高めています。2月には、保護者や地域の方に向けて、学習成果を発表することを予定しています。

これらの学校の取組を、全国学力・学習状況調査と関連付けて見てみましょう。児童生徒質問調査には、次の質問があります。

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」 (質問番号【25】)

全国的な傾向として、この質問に肯定的に回答している児童生徒ほど、次の3つの質問にも肯定的に回答しています。

- 「授業で学んだことを実生活等に生かすことができると思う」 (質問番号【35】)
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」 (質問番号【38】)
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」 (質問番号【40】)

つまり、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や、総合的な学習の時間、特別活動の取組を充実させ、学ぶことと社会とのつながりを伝えることで、児童生徒の「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という考えが形成されていると考えられます。今回、紹介した学校においても同様の傾向が見られています。